



かがはし
 梯川の河口から3k右岸付近には、国指定重要文化財の小松天満宮があり、地域のシンボルとなっています。このため、平成8年に文化財保護の視点より、小松天満宮の移設を伴う引堤計画から、文化財の現位置保全を可能とする分水路計画に変更しました。

こまつてんまんぐう
 平成11年には、分水路計画についての都市計画決定がなされ、その後、かわづくり・まちづくり（小松市）・みちづくり（石川県）が一体となって整備を進めてきたところですが、平成28年11月、梯川分水路の通水を迎えることとなりました。

重要文化財となっている本殿と神門



小松天満宮とは
 前田家3代当主利常が隠居し、居城を金沢から小松に移す際、当地と小松城の鎮護のため、鬼門の位置である梯川のほとりに1657年創建したものです。それは京都の北野天満宮を1/4の大きさと模したとされ、昭和36年に国重要文化財に指定されています。



平成28年6月15日撮影



歴史的町並みの整備状況
 (小松市大川町地先)

梯川分水路のあゆみ

昭和34年8月	台風7号による洪水（小松大橋地点1, 390m ³ /s（推定）） 本川・支川等堤防決壊、浸水家屋390戸
昭和46年	梯川一級河川指定 工事実施基本計画策定（基本高水流量1/100：小松大橋地点1, 700m ³ /s）
昭和49年	梯川改修計画策定（洪水調節施設で調節した後の河道流量：小松大橋地点1, 000m ³ /s）
平成7年	梯川技術検討委員会設立（分水路計画の水理模型実験を実施）
平成8年5月	直轄河川改修計画改訂（分水路計画追加）
平成11年1月	都市計画決定（前川合流点から白江大橋：分水路計画、小松大橋架替、市街地再開発との調和）
平成12年	分水路関連用地買収着手（事業着手）
平成18年	小松大橋架替着手（工事着手）
平成19年～	小松天満宮整備計画評価委員会設立（環境変化予測及び環境保全手法の検討）
平成20年6月	梯川水系河川整備基本方針策定
平成28年3月	梯川水系河川整備計画策定
平成28年11月	梯川分水路通水

梯川分水路概要

整備内容：輪中堤 L=約480m, 分水路(掘削) L=約210m, 築堤(外周堤) L=約440m
 その他 小松大橋架替, 天神水管橋架替, 市道付替, 水路付替, 排水樋管 など
 事業着手：平成12年度～平成28年度
 総工事費：約62億円

日時：平成28年11月20（日）11：00～
 場所：石川県 小松市 天神町地先（小松大橋下流右岸堤防）

出席者：国会議員 佐々木衆議院議員
 小松市 和田小松市長
 石川県 石川県知事（代理：土木部長）
 県議・市議 福村県議、藤井県議、八田県議、一川県議、梅田小松市議会議長 他
 国交省 治水課長、北陸地方整備局河川部長、金沢河川国道事務所長
 地域の方々 小松天満宮 小松神社 北畠宮司をはじめ、地元関係者 約20名

主催：金沢河川国道事務所、梯川水系河川改修促進期成同盟会

- ～式典次第～
- 式辞 和田小松市長
 - 挨拶 治水課長
 - 祝辞 佐々木衆議院議員
石川県知事（代理）
 - 工事説明
 - 通水 くす玉開披
 - その他 ドローン空撮
録画ビデオ放映
パネル展示



和田小松市長式辞(要約)

近年、梯川は川幅の拡幅によって見違えるように改修が進み、市民の皆さんの喜びの声も大きい。また、水郷の町「小松」の一つのシンボルになる改修も進めていただいている。

分水路計画は20年前に決定され、地域の皆様のご協力をいただきながら、川づくり、道づくりと相まって、昔の風情を残しつつ、来年で創建360年となる天満宮をとりまく分水路が通水したことに市民一同感謝。

昨今は北海道から九州まで予期せぬ大水害が発生しており、市民が安心できる生活や、企業が未来志向にたった事業展開ができる社会のためにも、引き続き、川づくりを進めていただけるように期待したい。



佐々木衆議院議員祝辞(要約)

国の重要文化財である小松天満宮を移転させることなく、分水路方式で浮島として保存された。かつての小松城が浮城であったこと、水郷の町であったことを彷彿させる、この地域ならではの治水事業である。小松天満宮の観光資源としての価値も高まったと思う。

分水路改修は、周辺の橋や道路の改修も併せて、道づくり、川づくり、まちづくりを一緒に成し遂げた大事業といえる。

北陸新幹線、小松駅の開業も間近であり、これを期に小松の観光地としての価値を高め、さらには市民の皆様の治水事業の理解と、防災意識も併せて高めていただけるようお願いしたい。



くす玉開披



治水課長挨拶



梯川分水路 通水の瞬間